# 豊かな発想と表現力をはぐくむ指導の工夫
## ージーンズのカスタマイズ実習を取り入れた授業づくりを通してー

指導主事　鈴 木　千 晶

## Ⅰ　研究の趣旨

### 1　高等学校家庭科の実践課題

本教育センターにおける高等学校家庭講座を開講するにあたり，県内の家庭科教員（回答者60名）を対象に「家庭講座の開講希望調査」(2010）を実施した。結果は，以下のとおりである（**図１**）。

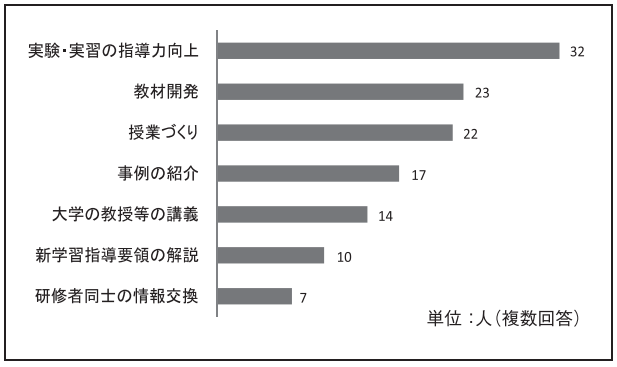



**図１　家庭講座で開講を希望する内容**

このことから，生徒が主体的に実験・実習に取り組むことができる教材開発と授業づくりに関する研修が求められていることが分かった。

家庭科の授業においては，実践的・体験的な学習活動を展開しやすいことから「調理実習」と「被服実習」を重視している教師が多い。「調理実習」については，栄養，食品，調理及び食品衛生等の科学的な理解を促し，家庭の食生活に生かすことで実践につなげやすい。しかし「被服実習」についてみると，実習の効率性から市販の教材セットを使用し，一斉指導で対応している教師が少なくない。生徒の衣生活の課題を解決し，家庭実践へつなげていくような学習活動を十分に保障してきたとは言い難い。

### 2　生徒を取り巻く衣生活の現状

私たちの衣服は,既製品が主流になった。そして，新しい被服材料の開発が進み，多種多様な合成繊維や加工により，性能の改善やファッション性の向上が図られている。近年「ファストファッション」と呼ばれる最新の流行を取り入れた低価格の衣料品が大量に出回るようになった。それは，手軽に購入できるようになったが，安易に廃棄できるということでもある。このような状況の中で，生徒は衣服の素材についての知識が必ずしも十分ではなく，衣服を衛生的に管理したり，適切に選択・購入したりすることが容易でないことがある。

### 3　家庭科における「豊かな発想と表現力」とは

家庭科は生活の実践を大切にする教科である。荒井によると「今ある生活をまかない，適応することだけを意味するのではない。生活を見つめ，問題に気付き，それを解決してよりよい生活を『創る』ことが，本来，『実践』の意味には含まれているはずである」と述べている。生徒が生活の主体者となって，よりよい生活を「創る」ためには，生徒の内面にある思いや考えを，日々の生活の中で表現していく力が求められる。

しかし，思いや考えは，断片的であったり，不確かであったりすることもある。「豊かな発想と表現力」をはぐくむためには，その思いや考えを深化させていく学習過程が大切であると考える。例えば，生活の様々な事象を体験的に学び，実感を伴って理解したり，他者の意見を参考にしたりする学習活動を展開することで，生徒は自分の思いや考えに確信が持てるようになり，自信を持って表現することができるようになると考える。

以上を踏まえ，高校生が現在及び将来の衣生活を主体的に営むことができるように，高校生を取り巻く衣生活の実態や興味・関心を踏まえた指導の在り方について研究することとし，本主題を設定した。

## Ⅱ　研究の概要

### 1　研究仮説

生徒が保有する被服を有効に利用する学習において，豊かな発想と表現力をはぐくむ指導の工夫をす

れば，生徒は衣生活の課題に気付き，主体的に解決していくことができるようになるであろう。

## ２　研究内容・方法

### ⑴　生徒の実態把握

日本衣料管理協会が衣料管理士（繊維製品の企画・生産・販売・消費者対応等の部門で活躍する専門職）をめざす女子学生を対象に行った「衣料の使用実態調査」（2010）によると，よく着る衣料としてジーンズは70.6％であった。研究協力校の生徒18名を対象に実施した「ジーンズの所持数，廃棄方法等の調査」（2012）では，ジーンズの所持数は１人あたり平均２本であった。８本や10本所持しているという生徒も１名ずついた。また，着用しなくなったジーンズの廃棄等の方法は，所持本数の多い前述の生徒２名が「捨てる」と回答したが，「そのまま保有」の生徒が12名もおり，タンス等に死蔵していることが考えられる。

### ⑵　教材開発と授業づくり

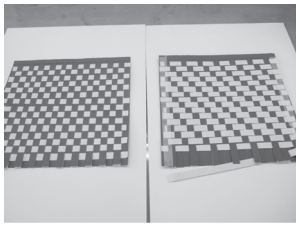
生徒の実態を踏まえ，不用ジーンズの環境に配慮した有効利用について題材を構成し，研究協力者の協力を得ながら授業実践を行うこととした。

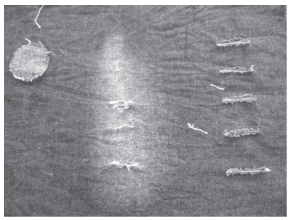
ここでの「環境に配慮した」とは，資源の有効利用の観点から，購入から廃棄までを考えた循環型の被服計画の必要性について理解させることである。

#### ①　教材の工夫

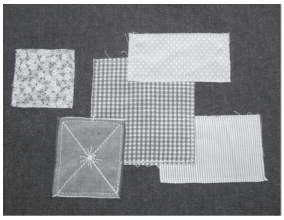
ア　ジーンズを教材とすることで，被服の機能を，衣文化の背景も含めて理解させることができる。例えば，ジーンズの素材であるデニムのインディゴ染料の特有の臭いは，蛇や虫よけに効果があり，アメリカの金鉱で働く労働者が，ジーンズを労働着として着用したのはその理由による。また，織物の経（たて）糸の染色は洗濯の回数に応じて糸の表面が摩滅し，糸の芯白の部分が現れ，白線が走ったような独特の色調が表現される。生徒が着用しているからこそ共感でき，被服の機能等について，実感を伴って理解させることができる。

イ　生徒の思考を深め，作品を表現するための参考になるように，実物標本を豊富に準備する。カスタマイズするための技法は，ヤスリでこすったり，ハサミで切り込みを入れたり，接着したり，脱色したりする簡単なものから，小中学校で習得した縫製技術を活用するものまで，生徒の技能レベルに合わせてカスタマイズできるように配慮する。


織物の組織標本


シェービング・ダメージ

ステッチ・レース


アップリケ

フリル・ボタンなど

ブリーチ（脱色）

#### ②　指導方法の工夫

ア　生徒の被服の保有調査の分析を通して，生徒自身の消費行動を振り返らせる場面を設定することにより，被服計画の必要性と環境に配慮した被服の有効利用との関連性に気付かせ，生徒の課題意識を高めることができると考える。

また，ジーンズの素材であるデニムに関する知識を効率よく習得させるために，６名編成のグループ学習とし，テーマを六つ設定（衣文化，被服の機能，布の組織，染色，加工，縫製）し，各自がテーマ別に調べ学習をした結果を発表させる。この方法は，調べる観点が明確になり，同じテーマを持つ生徒同士で調べ方やまとめ方の情報交換をすることができる。生徒は主体的にグループでの役割を果たしながら知識を習得することができる。

イ　ジーンズのカスタマイズ計画を作成する時間は，テレビ会議システム（以下，テレビ会議）を活用し，東京の服飾専門学校と接続して遠隔講義を実施する。

ウ　作品発表は，ファッションショー形式を取り入れる。デザイン発想から作品にふさわしい着装まで，ファッションをトータルにとらえさせることができ，見通しを持って最後まで意欲的に学習に取り組むことができる。

### ⑶　教員研修の充実

高等学校家庭講座「豊かな発想と表現力をはぐくむ被服実技講座」を開講し，家庭科を担当する先生方と共に，授業づくりに必要な研修を通して，新教材と効果的な指導方法を提案する。

## Ⅲ　研究の実際

### 1　授業実践

研究対象　　高等学校総合学科第３学年
「服飾文化」選択者女子18名

実施期間　　平成24年10～12月

### ⑴　検証授業の指導計画

| 時間 | 学習活動・内容 | 学習のねらい |
|---|---|---|
| 1 | **新素材とは何か**<br>・　新素材やファッション産業の現状を知る。 | ○　被服材料，被服管理の基礎的・基本的な知識を身に付ける。 |
| 2 | **被服の保有調査の分析**<br>・　調査結果をまとめ，被服計画の必要性，環境に配慮した衣生活について，グループで発表する。 | ○　自分や家族の被服計画の必要性を考える。<br>○　環境に配慮した衣生活に関心を持つ。 |
| 3 | **デニムの基礎知識**<br>・　テーマ別にデニムに関する調べ学習をし，グループで発表する。（ジグソー学習） | ○　衣文化，被服の機能，布の組織，染色，加工，縫製について理解する。 |
| 4・5 | **ジーンズのカスタマイズ**<br>・　カスタマイズの技法を知る。<br>・　デザイン発想のポイントを理解し，作品のカスタマイズ計画を立てる。（テレビ会議による遠隔講義） | ○　被服材料の特徴を生かし着用者・着用目的や場面を考えて，カスタマイズ計画を立てる。<br>○　講師による助言を生かして，カスタマイズの方法を考えようとしている |
| 6～9 | **カスタマイズ実習**<br>・　カスタマイズ計画をもとに，材料や用具を効率よく使用し，作品を仕上げる。 | ○　既習の知識や技術を活用し，ジーンズのカスタマイズ実習に取り組む。 |
| 10～12 | **ファッションショーによる作品発表と学習のまとめ**<br>・　着装を考え作品を発表する。<br>・　作品のよさを互いに伝え合う。<br>・　被服の有効利用の意義についてまとめる。 | ○　作品鑑賞の観点（デザイン発想・被服材料の効果的な使用・着装）に基づいて，互いの作品のよさを付箋に記入し，作品の価値を理解し合う。<br>○　環境に配慮した被服計画の必要性を理解する。 |

### ⑵　検証授業の考察

#### ①　教材の工夫

本学習の最大の楽しさを質問したところ，「自分の好みでジーンズをカスタマイズできたこと」と７割の生徒が回答した。また，「衣服の再利用の方法が理解できたので，他の衣服にも応用したい」と５割の生徒が回答した。このことから，生徒の実態を把握した題材と意思決定が伴う学習は，生徒の学習意欲と実践力を高めるとともに，学習に対する充実感を与えることができたと言える。

#### ②　指導方法の工夫

ア　グループで「調べる」「考える」「発表する」学習活動により，短い授業時数で効率よく知識を習得させることができた。本学習で理解したことを質問したところ，「ジーンズの歴史」が７割と最も多く，次いで「環境に配慮した衣服の再利用の必要性」が６割であった。従来の，教科書を中心とした講義形式の学習では，被服の歴史や被服と環境に関する理解を図るには，十分な指導方法とは言い難かった。生徒一人一人の学習活動を保障したことにより，生徒は調べることで知識が広がっていくことの楽しさを覚えた。放課後に書籍やインターネットを使用して主体的に学習に取り組む姿が多く見られたことも成果の一つである。

イ　テレビ会議を活用した授業では，生徒の授業に臨む真剣なまなざしが印象的であった。「外部講師と授業者の両方から指導してもらえる」「遠隔地にいても最新の知識と技術がリアルタイムで学べる」と７割の生徒が肯定的にとらえていた。

遠隔講義の様子（実演指導）

テレビ会議の設定や接続，機材等には，事前準備が必要になるため，常設できる教室の確保や人的なサポート体制等の整備は，学校の実態に応じて検討していかなければならない。

### ⑶　作品の紹介

【友だちの感想】
- ○　ジーンズがベストになるって？？？発想がスゴイと思った。
- ○　いらなくなったＴシャツの柄を縫い付けたアイディアは面白いと思った。
- ○　すそがアームカバーに変身したのがよかった。漂白剤で脱色したチェック柄も袖口のレースもいい感じ。

図２　ジーンズを逆さまにカスタマイズ

漠然とした
カスタマイズ計画

カスタマイズ後

カスタマイズ前

【私の感想】
　ジーンズをスカートにカスタマイズするのは，縫い目をほどいて，マチ布を付けるのが難しそうで悩みました。その時，自由に使ってよい材料の中にレースを見付けたので，ショートパンツにしてすそに縫い付けたら私にもできると思いがんばりました！
　ファッションショーでは，みんなから「いいね！似合っている」と言われてうれしくなりました。今回のようなファッションスタイルは，新たな発見でした。これからも大切に着用しようと思っています。

図３　流行のショートパンツにカスタマイズ

**図２**の生徒は，ジーンズを逆さまにして，ベストとして着用する面白い発想と，不用となったＴシャツの柄を切り取って縫い付けたことで，個性的な作品に仕上げることができた。

**図３**の生徒は，ジーンズをスカートにカスタマイズしたいという漠然とした計画を持っていた。テレビ会議を通して，講師からデザイン発想の助言を受けたが，イメージを確定することは困難であった。しかし，実習で材料に触れたり，他者の意見を参考にしたりしながら，自分の技術力も考慮してショートパンツのカスタマイズを選択した結果，本人にとって満足の行く作品に仕上げることができた。

### ⑷　授業実践を終えて

授業者は，日頃から「コーチング」の技法を取り入れ，学習過程や作品発表時に，ペアやグループにおいて「いいね」と承認し，生徒が思考したことを，自信を持って発表することができるような配慮をしている。言語活動の充実を図るためにも，親和的な学習集団を築くことが何よりも大切である。

また，ワークシートや作品を展示するなどして，生徒の思考過程や学習の成果を可視化し，生活をよりよくするためのアイディアが共有できるような学習コーナーの充実に努めている。

## ２　教員研修の充実

### ⑴　研修の目的と内容

| | | |
|---|---|---|
| 1日目 | 講義 | 「衣生活に関する指導上の課題と学習指導要領改訂のポイント」 |
| | 実習 | 「豊かな発想と表現力をはぐくむ新しい教材づくり」 |
| 2日目 | 講義 | 「衣生活に関する授業づくりの視点と実践事例の紹介」 |
| | 講義<br>演習 | 「アパレル業界の現状～新素材の開発～」<br>「新しい教材を用いた授業づくりと評価」 |

高等学校家庭講座の研修内容

今日的な消費者のニーズと消費行動の変化をとらえながら，衣生活分野の実践的な指導力向上をめざし，衣生活分野の新しい教材開発と授業づくり，その評価について研修を行った。

### ⑵　言語活動の充実を図る指導のポイント

学習指導要領改訂のポイントの一つである，言語活動の充実を図る指導の在り方について理解を深めた。思考を深め表現するための学習活動は，意見を交換する，製作物を提示して説明する，ワークシー

トの記入を工夫するなどが考えられるが，観点を明確に示して行うことが大切であることを確認した。

**⑶　授業づくりのための教材研究**

ジーンズのカスタマイズ実習を行い，デザイン発想の視点とそれを表現するための技法を学んだ。また，研究協力者（授業者）より，本題材の授業実践の成果と課題を発表する時間を設定し，各研修者が自校で授業づくりを行う際の参考になるようにした。

２日目は，テレビ会議を利用して，ファッション産業の動向や新素材について遠隔講義を体験した。画面と音声だけでなく，準備された様々な新素材に触れることができ，最新のファッション産業の動向について，遠隔地にいながら教材研究を深めることができた。

**⑷　授業づくりの視点と評価の在り方**

２日間の研修を総括して「被服を有効利用～ジーンズのカスタマイズをしよう！～」（家庭総合，総時数12時間）を想定し，指導と評価の計画，観点別評価の在り方と評価規準のモデルを示し，実際の授業展開と指導方法について演習を行った。研修者からは，「小中高等学校の学習の視点を意識して，指導と評価の計画や指導方法を研究することの意義が分かった」「本時のねらいと評価方法が適切なのか，日々の授業を点検し，授業改善の必要性を認識した」等の感想が寄せられた。

## Ⅳ　研究のまとめ

### １　成果

**⑴　衣生活を主体的に営むことができる指導の工夫**

新教材「ジーンズのカスタマイズ」は，被服計画の必要性と環境に配慮した被服の有効利用との関連性に気付かせ，課題意識を高めるために有効な教材であることが分かった。

調べ学習，カスタマイズ実習，テレビ会議の活用，作品発表は，他者とのかかわりの中で思考を深化させ，自分らしく表現させることができる有効な指導方法であることが分かった。

このことから，生徒が保有する被服を有効利用する学習において，衣生活と自己の消費行動や環境まで視野を広げて思考することや，問題解決に向けて実践することができるようになり，これからの衣生活を工夫して改善しようとする態度が見られるようになった。

**⑵　教員研修の重要性**

指導者の課題を明確にした家庭講座の研修は，学校現場で活用できるものとなり，教員の指導力と実践力の向上に役立った。

### ２　課題

**⑴　教材研究の充実**

家庭生活を総合的な視点からとらえた年間指導計画を作成し，指導内容の精選を図ることが必要である。生徒の実践的な態度を育てるために，具体的な事例や実験・実習の内容を研究し，生徒の実態と社会の変化に対応した教材開発が更に求められる。

**⑵　学習評価と授業改善**

指導と評価の計画を検討し，学習のねらいが明確な授業づくりが必要である。そのためには，ペーパーテストの平均点○割，作品点○割などといった画一的な評価を改善し，適切な評価場面と方法を研究していかなければならない。

生徒の生活経験は年々減少し，生活に必要な知識や技術が低下していると指摘されている。しかし，生徒が主体的に生活にかかわろうとする意欲を引き出し，学習を価値付けることで学ぶ喜びを味わわせることは，私たち教師の重要な使命である。今後も，家庭科のよりよい授業が展開されるように研究を進め，学び続ける教師の力になりたいと考える。

〈参考・引用文献〉

１）高等学校学習指導要領解説家庭編
（文部科学省　2010年）
２）中等教育資料平成24年４月号
（文部科学省　2012年）
３）中学校高等学校家庭科指導法
中間美砂子・多々納道子編著（建帛社　2011年）
４）パワーアップ！家庭科
荒井紀子編著（大修館書店　2012年）
５）「言語活動の充実」を図る学習指導の在り方
（福島県教育センター研究紀要　第40集　2011年）
６）やってみよう！コーチング
石川尚子著（ほんの森出版　2009年）
７）JEANS HAND BOOK《ジーンズテキスト》
（繊維流通研究会　2010年）